

令和7年度

「運営に関する計画」



大阪市立大領中学校

令和7年4月

大阪市立大領中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 「安全・安心な学校」に関して、いじめ、不登校、問題行動を発生させない学校体制の構築を目指すとともに、発生した場合に迅速に対応できる組織づくりを目指す必要がある。また、防災に対する意識の向上と、行動に移せる実践力が必要である。
- 「道徳心・社会性」の育成に関して、道徳の時間をはじめ、様々な教育活動の中で、「互いを思いやる心の育成」を計画的・継続的に実践し、学校行事を計画実践していく中で、協力し合う姿勢の定着が見られ、秩序ある集団に成長しつつある。
- 「特別支援教育の充実」に関して、特別支援学級担任を中心に、教職員全体で生徒個々の状況を確実に把握し、共通理解を図る中で、生徒に寄り添い一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導と支援の充実と定着を図る必要がある。
- 「学力の向上」に関して、日々の学習指導において、研究・工夫・改善などにより、生徒の学習に対する取り組みに良好な変化が見られており、中学生チャレンジテスト、チャレンジテスト plus 等で成果が見られている。全国学力・学習状況調査においては、さらに結果に結びつける必要がある。英語力調査において、令和 4 年度調査は好結果であったが、この状況を続けていくためにも引き続き指導を充実させる必要がある。
- 「健康・体力の保持増進」に関して、健康診断後の受診率を高め、生徒自身に自らの健康への関心と注意力を身につけさせる。食事の大切さを理解させ、朝食をはじめ、規則正しく食事を摂ることができるよう食育を充実させる。
- コロナ禍において、感染予防に向けた取組を続けたことで長期間の学校休業等が生じることはなかった。しかし、生徒の抱えるストレスは非常に大きいものであり、そのケアに向けた取組を充実させる必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「学校に行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査の「体育大会や文化祭、その他の取組など行事は楽しみ」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 96%以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70%以上にする。
- 障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を、保護者と共同で共通理解のもと作成する。そして、令和 7 年度の校内調査の「一人ひとりを大切にした教育を推進している」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 障がいについて生徒相互が理解を深める教育、また学級や学年で「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育を進め、令和 7 年度の校内調査の「互いに理解が深まった」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和 7 年度の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を 35%以上にする。
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査の平均正答率を、各教科全国平均以上にする。
- 令和 7 年度の大阪市英語力調査の「中学校卒業段階での CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する」生徒の割合を 55%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査において「授業は、わかりやすく楽しい」と回答する生徒の割合を 90%以上にする。
- 令和 7 年度の校内調査の「先生は自分たちの学力の充実のため、努力・工夫をしてくれている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 90%以上にする。

- 令和7年度の校内調査の「朝食は、毎朝しっかり摂っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 令和7年度の校内調査の「自分の健康に関心を持っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- 体育の小中連携を推進し、指導に幅を持たせる研修に努め、令和7年度の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の体力合計点を全国平均レベルにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度の校内調査における「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、「ほぼ毎日」と回答する生徒の割合を100%にする。
- 令和7年度に「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1及び基準2を満たす教員の割合を80%以上にする。
- 令和7年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を44%以下にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。
- ② 年度末の校内調査において不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- ③ 年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。

学校の年度目標

- ④ 校内調査において「体育大会や文化祭、そのほかの取り組みなど行事は楽しみ」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする。
- ⑤ 校内調査において「学校のきまり・規則を守っていますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を90%以上にする。
- ⑥ 障がいのある生徒の「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を保護者と共同で共通理解のもと作成する。そして、校内調査において「一人ひとりを大切にした教育を推進している」と回答する生徒の割合を80%以上とする。
- ⑦ 障がいについて生徒相互が理解を深める教育を通し、学級や学年で「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育を進める。そして、校内調査において「互いに理解が深まった」と回答する生徒の割合を80%以上とする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を 30%以上にする。
- ② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- ③ 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学 3 年生の割合（4 技能）を 55% 以上にする。
- ④ 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を 55%以上にする。

学校の年度目標

- ⑤ 校内調査において「授業は、わかりやすく楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 75%以上にする。
- ⑥ 校内調査において「先生は自分たちの学力充実のため、努力・工夫してくれている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 85%以上にする。
- ⑦ 校内調査において「朝食は、毎朝しっかり摂っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ⑧ 校内調査において「自分の健康に関心を持っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- ⑨ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が大阪市平均を上回るようにする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、生徒の 8 割以上が、学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 50%にする。
- ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準 2 を満たす教員の割合を 75%以上にする。

学校の年度目標

- ③ 校内調査において、「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 60%以上にする。
- ④ 校内調査において「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日あたりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を 44%以下にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大領中学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ いじめなど、生徒に係わる諸問題については、学級・学年・学校全体として受け止め、解決に向け考え、支え合える集団を育て、早期発見・早期解決に取り組む。 ・ 前年度に暴力行為のあった生徒には教育相談等で現状を確認する。また、学年集会等でも学年全体に暴力行為は絶対に許されないことを伝える。 (生活指導部)	
指標：いじめアンケート、教育相談を各学期 1 回以上行う。	
取組内容②【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ 生徒会活動を中心とした「あいさつ運動」を充実させ、登校指導を含め互いに気持ちよくあいさつが出来るようにする。 (生活指導部)	
指標：生徒アンケートを行い、「毎日挨拶をしている」の肯定的意見を 80%以上にする	
取組内容③【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ 安全に関する指導を継続的に行い、救命講習会を実施し知識と理解を深める。また、防災に関して講演や訓練（火災・地震・津波）を実施し、安全に確かな判断と行動ができるようにする。 (生活指導部)	
指標：救命講習会、避難訓練を実施する。	
取組内容④【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】 ・ 不登校気味の生徒は担任を中心に学年全体で注視しておく。また、休んだ時の理由を保護者と共有し、不登校にならないように連絡を密にする。 (生活指導部)	
指標：不登校を昨年度と比べ、割合を増加させない	
取組内容⑤【基本的な方向 2 豊かな心の育成】 ・ 体育大会や文化祭および学年を主体とした取り組みにおいて、生徒が主体的に取り組み、仲間と協力し合う態度を育成し達成感や成就感を経験させ、自信を持たせる。 1 年 行事を通して、協調性や主体的に行動することで得られる達成感などを経験させる。 2 年 行事 1 つ 1 つに生徒自身が主体的かつ学年全体で協力して取り組み、充実した時間を共有することで、達成感を経験させる。 3 年 1 つ 1 つの行事に精一杯力を注がせ、達成感、成就感を経験させる。 (各学年)	
指標：各行事において、生徒アンケートで「体育大会や文化祭、そのほかの取り組みなど行事は楽しみ」と答える生徒の割合を 80%以上にする。	

取組内容⑥【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・特別支援教育の充実のため、生徒一人ひとりの障がいの状況や、発達の段階に応じて共通理解をし、日々の指導と支援につなげ、一人ひとりを大切にしたい教育を実践する。 ・定期的に特別支援教育委員会を開催し、課題の確認・対応・解決につなげる。 ・生徒一人ひとりが自立し、「共に学び・共に育ち・共に生きる」教育の実践を行う。 ・個別のニーズに対応し、自立・自律につながるように生徒一人ひとりの能力や技能を伸長させる。 (特別支援教育)	
指標：保護者や関係機関等との連携を通じて「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」に基づいた教育を実施し、特別支援教育委員会等の機会を通じて確認をする。	
取組内容⑦【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・美化整備計画の企画立案を行い、学習環境の維持に努める。 (健康教育部)	
指標：大清掃を年3回、ワックスがけを年3回以上行い、美化委員会において、生徒アンケートで「活動できた、ほぼ活動出来た」と答える生徒の割合を60%以上にする。	
取組内容⑧【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・職業観、勤労観を育て、主体的に自ら進路を選択する能力と態度を育てる。 ・キャリア教育の推進。 ・1年生は職業講話、2年生は職場体験、3年生は出前授業(高校授業体験)を実施する。 (キャリア教育委員会)	
指標：各取り組みにおいて、90%以上の生徒が有意義であったと感じられるようにする。	
取組内容⑨【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・人権教育の推進に努め、互いの違いを認め合い、差別を許さない教育を実践する。 ・教職員研修を実施し、教職員の人権意識の向上に努める。 ・自他の生命を尊重し、自己肯定感を高める教育の実践を行い、よりよい人間関係を築ける取り組みを進める。 (人権委員会)	
指標：各取り組み後のアンケートにおいて、肯定的な意見を述べる生徒の割合を80%以上にする。	
取組内容⑩【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・週に1回の道徳の授業を確保し、実施する。 ・道徳の22項目をすべて実施する。 (道徳委員会)	
指標：生徒自己評価において肯定的な評価をした生徒の割合を80%以上とする。	
取組内容⑪【基本的な方向2 豊かな心の育成】 ・生徒の自主性を育み、包容力のある、規律のとれた集団の育成に努める。 1年 学年行事において、自主的な活動を促す。リーダーシップの育成、学年全体の社会性を育む。 2年 学校行事・学年行事などを行う際、生徒の自主的な活動を促し、企画・運営にも積極的に参加させる。その活動を通してリーダーシップを育み、学年全体の社会性を育てる。 3年 特に大きな行事である修学旅行や体育大会・文化祭、さらに学年で取り組む行事を行う際、可能な限り生徒に企画・運営させリーダーシップを育む。 (各学年)	
指標：「共に学び、共に育ち、共に生きる」教育を進め、校内調査において、「互いに理解が深まった」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（今後）への改善点

大阪市立大領中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【未来を切り拓く学力・体力の向上】 全市共通目標 ① 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を30%以上にする。 ② 中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。 ③ 大阪市英語力調査におけるCEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を55%以上にする。 ④ 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を55%以上にする。 学校の年度目標 ⑤ 校内調査において「授業は、わかりやすく楽しい」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を75%以上にする。 ⑥ 校内調査において「先生は自分たちの学力充実のため、努力・工夫してくれている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上にする。 ⑦ 校内調査において「朝食は、毎朝摂っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ⑧ 校内調査において「自分の健康に関心を持っている」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 ⑨ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点が大阪市平均を上回るようにする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・全教職員が年1回以上の公開授業を実施し、研究協議・意見交換の中で指導力の向上を目指す。 ・各教職員が、説明・板書・発問の実施方法を見直し、生徒にとって「わかりやすい授業」となるよう工夫と研究する。 ・初任者や若手教員と、中堅・ベテラン教職員による教科内をはじめ、教科をこえた授業研究を通して、教科指導に関して情報交換を行い、互いに指導力の向上につなげる。 (教務部)	
指標：「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を70%以上とする。	
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 ・宿題や課題の提出、確認テストなどの実施により、生徒の学習理解度を確認し、生徒が一人で学ぶことができる学習教材を提供し、自主学習の習慣を身につけさせる。 ・宿題を提出させ、予習・復習を定着させ家庭で学習する習慣をつけさせる。 (教務部)	
指標：「家で勉強している」と回答する生徒の割合を70%以上とする。	
【国語科】 ・漢字、文法、語句などの基本的事項の定着をはかる。 ・TTや少人数指導を適宜行い、一人ひとりに応じたきめ細かい指導を行う。 ・生徒の実態に応じた教材の工夫を行い、国語の授業がわかるという生徒の割合を向上せる。	
指標：基本事項の知識的領域の定着率が30%未満の生徒を25%未満とする。	
【社会科】 ・生徒の意欲、関心を高めるため、ICTなどで視聴覚に訴える教材を多く活用する。 ・重要語句を理解し、表現できる力を育て、定期テストなどの到達度を高める。 ・資料を読み解く力、長文読解力を育て、定期テストなどの到達度を高める。	
指標：チャレンジテストにおける平均点を、大阪府の平均点を上回る。(1年生は大阪市チャレンジテスト plus の平均点以上)	
【数学科】 ・生徒の実態や学習到達度に十分配慮しつつ、基本的事項の理解のため反復練習を行う。 ・複数教員による指導を導入し、きめ細かい指導を行う。	
指標： ・提出物の提出率を85%以上。 ・チャレンジテストにおける平均点を大阪府と比較して、3年生においては経年比較でプラス1ポイント以上、2年生においては大阪府の平均点プラス8点、1年生においては大阪府の平均点以上。	
【理科】 ・科学的思考力および実験観察の技能を育み、五感を通しての記憶の定着を図るため、演示も含む実験・観察を多く行う。 ・生徒の理解を深め、生徒の興味関心を引き出すためにICT機器を活用する。 ・習熟度を確認するため、定期的に小テストを行う。	
指標： ・生徒アンケートを行い、「理科の授業が楽しい」など肯定的な意見が70%以上となるようにする。 ・ICT機器を活用した授業を週に1度以上行う。 ・各単元で1度以上、小テストを行う。	

【音楽科】 ・興味や関心を持つように ICT 機器を活用し、五感に訴える授業を行う。 ・音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴く力の育成に努める。 ・音楽に関する知識や技能を高め、音楽に親しんでいく態度を養う。	
指標： ・授業アンケートで肯定的な意見が 80%以上とする。 ・ICT 機器を活用した授業を月 1 回行う。 ・小テストを 2 か月に 1 回行う。	
【美術科】 ・創作活動の意欲・関心を高めるため、ICT を活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。 ・基礎的・基本的な知識・技能の定着を図り、興味や関心をもたせるよう工夫をし、楽しく美術の活動に取り組む態度を育てる。 ・美術文化に対する関心を高め、良さや美しさ等を味わう鑑賞の能力を育てる。	
指標： ・描く、作る、観る活動を各学年で必ず一回以上体験させ、総合的な力を伸ばす。 ・授業アンケートで美術に対する肯定的な意見を 80%以上にする。	
【保健体育科】 ・興味・関心をもたせるよう教材や指導方法を工夫する。特にタブレットなどを駆使し自分の姿を見ながら生徒自身に考えさせる授業の展開を行う。 ・授業におけるトレーニングを継続し、健康な体づくりを目指し、全国体力テストの大阪市の平均に迫る結果を得る。 ・授業を通して、自己調整と粘り強さという態度を養う。	
指標： ・全国体力テストで大阪市平均を上回る。 ・生徒アンケートで体育の授業が楽しかった等の肯定的意見が 90%以上にする。	
【技術・家庭科】 ・基礎的な知識・技術を習得させ、作業の楽しさや完成の喜びを体得できるよう教材の内容や指導方法を工夫する。遅れがちな生徒には放課後の補習も実施し、作品の全員完成、提出を目指す。 ・体験的な学習や実習をできるだけ多く実施し、実生活に活用できる学習内容・指導方法を工夫する。	
指標：生徒作品や課題など提出状況 90%を上回るようにする。	
【英語科】 ・全学年を通して週に 2 回の TT や、場面に応じて少人数分割授業を行い、個に応じた学習を進めきめ細かい指導に努める。 ・C-NET を月に 2 回程度活用し、「話す」「聞く」活動に力を注ぎ、コミュニケーション能力の向上に努める。 ・全学年で単語・熟語テストを繰り返し実施、語彙を増やし英語での作文力を伸ばす。 ・毎学期末に生徒アンケートを行い、授業改善に役立てる。	
指標： ・授業アンケートで肯定的な意見が 7 割以上になることを目指す。 ・C-NET の活用及び TT の実施をそれぞれ月 2 回以上行う。	

取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・球技大会、水泳大会、部活動等とおして積極的に参加する態度を養い、自らの身体づくりへの気持ちを高める。 1年 各行事を盛り上げ、部活動の意義を感じさせることで、それぞれへの意欲的な参加につなげる。 2年 諸行事に対して、全力で取り組むことの楽しさを実感し、より意欲的な態度の育成に繋げる。 3年 諸行事それぞれに意欲的な参加につなげ、全力で取り組み、有意義な時間を個々としても学年全体としても共有する。 (各学年)	
指標：事後アンケートで肯定的な回答をする生徒の割合を85%以上にする。	
取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・保健だよりを通して朝ごはんの重要性について知らせる。 ・生徒保健委員会の活動内容に朝ごはんのことを入れて、生徒から生徒へ発信させる。 ・栄養面については家庭科、運動のパフォーマンスについては保健体育科からもアプローチしてもらうように連携する。 (健康教育部)	
指標：「毎朝朝食を摂っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	
取組内容⑤【基本的な方向5 健やかな体の育成】 ・健康診断後、受診の必要な生徒へ個別にアプローチをしていく。 ・学校医や学校薬剤師など外部と連携し、生徒に自身の健康について考えさせる。 ・生徒保健委員会で心身の健康についての取り組みを行う。 (健康教育部)	
指標：「健康に関心を持っている」と回答する生徒の割合を80%以上とする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（今後）への改善点

大阪市立大領中学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【学びを支える教育環境の充実】 全市共通目標 ① 校内調査において、「日々の学校活動の中で学習者用端末を活用している」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を80%以上にする。 ② 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準2を満たす教員の割合を75%以上にする。 学校の年度目標 ③ 校内調査において、「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を60%以上にする。 ④ 校内調査において「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して「読書を全くしない」と回答する生徒の割合を44%以下にする。	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6 教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・ ICT 機器の活用により、視覚的に教材提示することで、生徒にとって授業が楽しく、わかりやすくなるように工夫研究する。 ・ 機器の整備を進め、活用に関する研修会を実施する。新しい PC への移行の準備を行う。 ・ 生徒の係に ICT 担当を設置し、ICT 活動を推進する。 ・ ICT 機器、タブレットの故障や破損がないように機器の取り扱いについて注意喚起を推進する。 (ICT 委員会) 指標：「授業はわかりやすい」と回答する生徒の割合を 80%以上とする。	
取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・ 毎日の図書館開館を目指す。 ・ 毎日の朝読書の定着を図る。 ・ 手続きの簡略を図り、読書が好きな生徒を増やす。（生徒の図書カードを廃止する） (教務部) 指標： ・ 学校行事以外の授業日中の図書館の開館を 90%以上。利用率の向上に努める。 ・ 生徒アンケートで「読書が好き」と答える生徒を 80%以上にする。 ・ 生徒が読みたい本の希望を調査し、充実した図書の向上に努める。	
取組内容③【基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 「チーム学校」の視点に基づき、学校内外の関係者との協働に向けた研修を実施する。 (教務部) 指標： 研修後の教員アンケートで「研修等が充実していたと思う」と回答する割合を 60%以上にする。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
次年度（今後）への改善点